

日本気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所	備 考
Second Inter-American Meteorological Congress and CONGEMET V	1987年11月30日 ～12月4日	アメリカ気象学会, 他	アルゼンチン, ブエノス・アイレス	Vol. 34, No. 5
第34回風に関するシンポジウム	昭和62年12月1日	土木学会, 日本気象学会, 他	土木学会土木図書館	Vol. 34, No. 6
月例会「レーダー気象」	昭和62年12月1日		気象庁	Vol. 34, No. 7
第10回極域気水圏シンポジウム	昭和62年12月8日 ～9日		国立極地研究所	Vol. 34, No. 8
半乾燥地域における対流性降雨に関するシンポジウム	1987年12月14日 ～18日	アメリカ気象学会, 他	イスラエル, イェルサレム	Vol. 34, No. 4
火山噴火予知研究シンポジウム (第2回)	昭和63年1月25日		日本学術会議講堂	Vol. 34, No. 11
Tropical Micro-Meteorology and Air Pollution 国際研究集会	1988年2月15日 ～19日		インド, ニューデリー	Vol. 34, No. 4
日本気象学会 昭和63年度春季大会	昭和63年5月18日 ～20日	日本気象学会	柏市市民文化会館・勤労会館	
第12回レーザセンシングシンポジウム	1988年5月27日 ～28日	レーザ・レーダ研究会 シンポジウム実行委員会	岡山市・桃花苑	Vol. 34, No. 10
Scale Modeling 国際シンポジウム	1988年7月18日 ～22日		東京	Vol. 34, No. 6
国際シンポジウム第3回 流れのモデル精度向上化	昭和63年7月26日 ～28日	同組織委員会, 他	日本都市センター	
第27回 COSPAR 総会	1988年7月18日 ～29日	宇宙空間研究委員会 (COSPAR)	フィンランド, ヘルシンキおよびエスプー	
国際オゾン・シンポジウム	1988年8月8日 ～13日	IAMAP オゾン委員会	西ドイツ, ゲッチンゲン (ゲッチンゲン大学)	Vol. 34, No. 1
国際放射シンポジウム	1988年8月18日 ～24日	IAMAP 放射委員会	フランス, リール	Vol. 34, No. 1
The 2nd International conference on Atmospheric sciences and Applications to Air Quality	1988年10月3日 ～7日	同国際組織委員会 国内組織委員会	日本学術会議	Vol. 34, No. 9

編集後記：気象観測測器の近年の発達は目ざましい。地上気象観測では測器というよりも装置というべきものになってきており、ほとんどが電子装置である。したがって観測者も、観測技術のほかに、電子装置の一応の保守が出来る知識、技能も身につけなければならない時代となった。

観測装置が発達する一方で、観測環境は都市化のため悪化してきている。特に、最近では気象官署の合同庁舎への入居が増えており、露場や測風測器の設置場所などの確保に苦勞することが多い。測風測器については、周りの建物等の影響を避けるために、高い位置に設置せざるを得ない。しかし、あまり高くすると地上風の観測ではなくなってしまうというジレンマ。理想的な観測環境を得ることが困難になりつつあるようだ。何らかの対策が必要となろう。

ところで、今月号には、普及講座として新野さんに「流れの安定性について」を書いていただいた。普及講座は約半年ぶりの掲載であり、あとからの検索を考えると連続掲載が望ましいが、種々の事情から散発的掲載になっている。

来年1月号から新企画「研究所めぐり」が連載される。これは気象学関連研究機関の組織、活動状況等を学会員に、よりよく知っていただくことを目的とするもので、いわゆる「△△研究所の概要」などの事務的総花的な紹介でなく、執筆者個人の目でみた紹介である。研究機関のユニークな点、研究業績等の中で特筆すべきハイライト、将来どのような研究部門をのばしたいか、研究機関への入り方（採用方法）など、研究者を志す人たちにも参考となるものである。

(U)